

平成 29年度東京農工大学連合農学研究科入学式
式 辞

東京農工大学連合農学研究科に入学された皆さん、おめでとうございます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。また、今まで支えてこられたご家族はじめ、関係各位にも謹んでお慶びを申し上げます。

本年度、連合農学研究科の大学院生として新しく仲間入りするのは、生物生産科学専攻 10 名、応用生命科学専攻 1 名、環境資源共生科学専攻 9 名、農業環境工学専攻 4 名、農林共生社会科学専攻 5 名の合計 29 名で、この中には世界 8 カ国からの留学生 10 名が含まれています。皆さんは大学院でのこれからの研究生生活を通じ、学術を進展させるのみならず、たくさんの友人を作ってください。中には大学院修了後も研究や仕事を通じて生涯の付き合いとなる友人もできることでしょう。キャンパスライフを満喫しながら、良い影響を与え合う関係を築いていってください。

さて、現代社会は人類の進化と社会・経済の発展とともに、環境、エネルギー、食糧、健康、安全・安心、災害等の問題など、人類の存続に係わる地球規模の危機的問題を多く抱えるようになりました。地球上の生物が共存できる環境の維持、安全な食糧の確保、われわれの暮らしを支える資源の確保、健康な生活維持は、われわれの地球にとって必要不可欠です。農学はこれらの問題の抜本的な解決に繋がる重要な学問分野として位置づけられています。こうした諸問題の解決には、我々科学者が先導して創造する科学技術の力が必要です。

これから皆さんが学ぶこの連合農学研究科は、東京農工大学、茨城大学、及び宇都宮大学の三大学が連携し、各々の研究の特性を活かすと同時に互いに補いつつ、国際色豊かで洗練された最前線の農学を研究するために創設されたものです。このような研究科は、全国的に見ても例が少なく、注目されています。今年で設立三十一周年となりますが、この特色ある成り立ちによって、他に比べて実効性や専門性がより高

い研究を豊かな発想で独自に展開しています。またそれを担う人材の育成のために、海外フィールド実習などを含むユニークなカリキュラムをさらに進化させてきました。所属する研究者・教員の意識も同様で、皆先端研究に邁進しています。そして本日から連合農学研究科の一員となった皆さん、皆さんもやはり今まで以上に主体性や自立心を求められることとなります。これからは先が見えない課題や難問に行き詰っても、自分の力で解決していかなくてはならないのです。もちろん人に相談するのは構いません。人の意見を聞くことはとても大切です。しかし誰かに答えを教えてもらうことはできません。誰かの答えはあくまでもその人のもので、決して皆さんの答えではないからです。ぜひ、自分で答えを探り出せるようにこの研究科でさまざまな経験を積んでください。

連合農学研究科は非常にユニークな研究科です。異なる大学がそれぞれの特色や背景を活かして、地球規模の視点から持続発展可能な循環型社会を創造するための研究を行い、人類の共存と福祉にグローバルに貢献する人材を育成するために日々努力をしています。皆さんは、このような研究科だからこそ得られる利点を最大限に活用し、個人個人の特色を大切に、そして何より自分自身の力で試行錯誤しながら、本物の知を手に入れてください。AI の画期的なブレークスルーなどを背景に、皆さんが活躍する未来の社会は、農学の分野を含め、今後、驚異的なスピードで変化し続けてゆくことでしょう。皆さんには、その変化を追いかけるのではなく、さらなる変化を起こす者として、日本に留まらず世界で活躍し、社会を牽引していく力を付けて欲しいと思います。そのために、我々も常に先頭を走り続け、全力でサポートを行っていきます。皆さんには溢れんばかりの将来性・可能性があります。皆さんの飛躍を心より期待しております。

そして最後にもうひとつ、あたり前のようにですがとても大切なことを申し添えます。学術研究の道は強靱な精神力や忍耐力が必要です。また身体的にも厳しいものがあり、健康な心と体がなくては続けることができません。特に海外や地方から来られた方々は、慣れない土地でいろいろと不安なことも多いでしょう。本日の入学式で掲げた高い

目標や夢を忘れず、健康に十分留意して、実り多い大学生活を送ってください。我々教職員も皆さんを心からサポートできるよう、あらゆる面で最大限の努力を続けてまいります。

本日、連合農学研究科へ入学された皆さんが大きく成長されることを願い、また皆さんが本学の一員となることにあらためて歓迎の気持ちをお伝えして、式辞といたします。

平成 29 年 4 月 11 日

東京農工大学長 大野 弘幸